

低硫黄軽油

もともとわが国が輸入している原油は、欧米で原料としている原油と比べ硫黄分が多い。現行の軽油中の硫黄分は500ppm以下に規制されており、実際には300ppm前後の製品が販売されています。硫黄を多く含む軽油がエンジンなどで燃焼すると硫黄酸化物が発生するうえ、排ガスから有害成分を除去するための設備(DPF等)の働きを劣化させます。

トラックやバスなどのディーゼル車による大気汚染を軽減するため、軽油の低硫黄化を早急に進める必要があります。低硫黄軽油(50ppm以下)については、平成15年度から順次供給される見込みです。

各種クリーンエネルギー自動車の比較

		排出ガス			航続距離	燃料供給設備	車両価格
		都市環境		地球環境			
		NOx	HC/CO	燃費・CO ₂			
ガソリン自動車		○	○	○	○	○	○
ディーゼル自動車		▲~△	○	◎	◎	○	○
LPガス自動車(ディーゼル代替)		○	○	○	△~○	△	△~○
天然ガス(CNG)自動車		○	○	◎	▲	▲	△
メタノール自動車	オットータイプ	○	○	○	△	▲	△
	ディーゼルタイプ	△	○	○	△	▲	△
ハイブリッド自動車	ガソリン・電気	◎	◎	◎	◎	○	△
	ディーゼル・電気	△	○	◎	◎	○	△
	ディーゼル・蓄圧	△	○	◎	◎	○	△
電気自動車		☆	☆	☆	▲	▲	▲
燃料電池自動車	水素搭載型	☆	☆	☆	△	▲	▲
	燃料改質器搭載型	☆	☆	◎	△	▲	▲
水素自動車		○	☆	☆	▲	▲	▲
ソーラーカー		☆	☆	☆	▲	○	▲

ガソリン自動車を基準(○)とした場合の相対比較 劣る▲←△←○→◎→☆すぐれる
(出典:「豊かな環境を次の世代に」(社)日本自動車工業会)